も早く罪がはれることを、ひたすら観音さまに、お祈りしていました。

間もなく、役人の追っ手に、この男が左下り観音堂に逃げこんでかくれていることを探り当てられ、見つけられて堂内から引張り出され、堂の傍にあった岩の上に座らされて、観音さまへのお祈りもむなしく、一刀のもとに首を切り落とされてしまいました。

落ちた生首をまわりに密生していたかや株で包み、それをくずつるで縛って、役人たちは、左下りの山をおり、越後国蒲原郡へと帰り始めました。

しばらくたっても生首の血は、くずつるをつたわって、どんどん出て止まりませんでしたので、傍にあった湧水で首を洗いました。しばらく行ってもまだ血のりが、どんどん出て止まりませんでしたので、またそこにあった川で洗いました。

こうしてまたしばらく歩いて行ってもまだ、血のりがどんどん出て止まりませんでした。役人たちも、一つの人間の生首が、こんなにいつまでも、切られて間もないときのように、血がどんどん出てくるものですから、不思議に思うと同時に、薄気味悪くなり、また、近